

ジャンボうさぎの紹介

1.通称「中仙ジャンボうさぎ」

正式には「日本白色種の秋田改良種」といううさぎです。

2.特徴

大人は普通6~7kg程度になりますが、大きくなるものは7.5~10kgにもなり、この血統のものを「ジャンボうさぎ」と呼びます。大人になるまで1ヶ月に平均750~900gずつ体重が増えていきます。しかし、大きくなるにつれ、比較的暑さに弱いところがあります。

3.ジャンボうさぎのキャラクター名

「デカラビくん」と「デカラビこさん」

4.ジャンボうさぎの生立ち

昭和59年に、大仙市清水字館越158-2 佐藤喜志治さん(故人75歳)が初めて10kg(10.4kg)を超えるうさぎを育て、50有余年に及ぶうさぎ飼育の夢が叶いました。秋田県のうさぎの歴史を見ると、県南部の仙北地方を中心に、うさぎの改良と保存に努力して来た経緯があります。現在秋田県内で飼育されている白うさぎは、ほとんど「秋田改良種」という大型うさぎです。「大きい白うさぎをつくろう」と秋田県で初めて大型化への改良に取り組んだ人が佐々木房之助翁(大仙市長戸呂)です。明治32年頃に岐阜県より大型うさぎを導入したのが始まりと言われていています。それ以来、仙北地域の各市町村のうさぎを愛する先人達によって、改良と保存がなされ引き継がれて来ました。そして現在も各市町村のうさぎ愛好家仲間によって、その歴史が護られています。その中でも大型うさぎの改良に今も取り組んでいるのが、中仙地域のうさぎ飼育者達です。

5.大型白うさぎの利用

当初は、食肉と毛皮の利用として飼育されていましたが、現在は犬に変わる実験用動物として、全国より要望されています。食肉としてはくせがなく、脂肪が軽く、アレルギー体質の人や、老人食、病人食としても有望視されています。その他フランス料理等の食材として広く利用されています。

6.全国ジャンボうさぎフェスティバル「歴代チャンピオン」



第1回	昭和63年度	中仙町	瀬野文雄	館和号	9.4kg
第2回	平成元年度	中仙町	佐々木末次郎	たまがわ1号	11.0kg
第3回	平成2年度	中仙町	佐々木末次郎	たまがわ5号	11.1kg
第4回	平成3年度	中仙町	佐々木末次郎	たまがわ6号	10.0kg
第5回	平成4年度	中仙町	佐々木末次郎	たまがわ6号	9.2kg
第6回	平成5年度	中仙町	佐々木末次郎	たまがわ8号	10.5kg
第7回	平成6年度	中仙町	佐々木末次郎	たまがわ11号	8.5kg
第8回	平成7年度	中仙町	草薙忠造	たてひめ号	9.1kg
第9回	平成8年度	中仙町	熊谷長夫	野中1号	8.8kg
第10回	平成9年度	中仙町	草薙忠造	たてこまち号	9.1kg
第11回	平成10年度	中仙町	伊藤良男	よさひめ号	9.9kg
第12回	平成11年度	中仙町	藤田昭雄	はなこひめ号	9.0kg
第13回	平成12年度	中仙町	伊藤良男	こまちひめ号	9.6kg
第14回	平成13年度	大曲市	松井良助	ようこひめ号	9.0kg
第15回	平成14年度	中仙町	伊藤良男	よさひめ2号	10.0kg
第16回	平成15年度	中仙町	草薙忠造	はるかぜ1号	9.2kg
第17回	平成16年度	中仙町	草薙忠造	あきかぜ2号	8.7kg
第18回	平成17年度	大仙市中仙	草薙忠造	たてこまち2号	9.25kg
第19回	平成18年度	大仙市大曲	松井良助	ようこ号	9.2kg
第20回	平成19年度	大仙市大曲	松井良助	ようこひめ号	9.6kg
第21回	平成20年度	仙北市	戸澤操	あずさ1号	9.8kg
第22回	平成21年度	大仙市中仙	草薙忠造	さとみ号	9.6kg
第23回	平成22年度	大仙市大曲	須田良助	やすこ号	9.5kg
第24回	平成23年度	大仙市中仙	伊藤良男	まちこひめ号	8.95kg
第25回	平成24年度	大仙市中仙	草薙忠造	さくらひめ号	10.50kg
第26回	平成25年度	大仙市中仙	富岡庄一	なかせん1号	9.70kg
第27回	平成26年度	大仙市中仙	伊藤良男	えりこひめ号	9.95kg
第28回	平成27年度	美郷町	高橋清一	ひらり号	9.50kg
第29回	平成28年度	大仙市中仙	草薙忠造	まちこひめ号	10.05kg